

寄贈図書リスト

隕石
 島 正子著, 四六判, 244p, 1,600 円, 東京化学同人, 読み物
 教養のための天文学講義
 米山忠興著, A5 判, 232p, 2,800 円, 丸善株式会社 教科書
 大宇宙の誕生
 福井康雄著, 新書判, 206p, 1,000 円, 光文社, 読み物

X線でさぐるブラックホール
 北本俊二著, 四六判, 162p, 1,400 円, 裳華房, 読み物
 重力波をとらえる
 中村卓史, 三尾典克, 大橋正健編著, B5 判, 418p, 8,000 円, 京都大学学術出版会, 専門書
 新版 100 億年を翔ける宇宙
 加藤万里子著, B5 判, 170p, 2,200 円, 恒星社厚生閣, 教科書
 星座への招待
 村山定男, 藤井 旭共著, 222p, 1,600 円, 河出書房新社, 読み物

月報だより

月報だよりの原稿は毎月 20 日締切, 翌月号発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので, 締切日よりなるべく早めにお申し込み下さい。e-mail で gjjimu@tenmon.or.jp 宛, 必ず Fax: 0422-31-5487 へも原稿をお送り下さい。

人事公募

標準書式: なるべく, 以下の項目にしたがってご投稿下さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員 (ポスト・人数など), 2. (1) 所属部門・所属講座, (2) 勤務地, 3. 専門分野, 4. 職務内容・担当科目, 5. (1) 着任時期, (2) 任期, 6. 応募資格, 7. 提出書類, 8. 応募締切・受付期間, 9. (1) 提出先, (2) 問合せ先, 10. 応募上の注意, 11. その他 (待遇など)

名古屋大学太陽地球環境研究所教官公募

[助教授公募]

1. 助教授 1 名
2. 電磁気圏環境部門 (愛知県豊川市)
3. 熱圏・電離圏・磁気圏物理学
4. 現在, 当研究部門では, 欧州非干渉散乱 (EISCAT) レーダー等の大型レーダーと大気光イメージング装置等を用いた地上観測, 人工衛星利用等の手法により熱圏・電離圏・磁気圏環境の研究を行っています。今回の公募では, 光学的・電波的観測手法を用いてこれらの研究を広く発展させるとともに, 当該研究分野において先導的な役割を果たしていただける方で, かつ理

学系または工学系大学院等の教育にも熱意をもち, 全国共同利用研究所としての任務を十分に理解し, 共同利用の促進に積極的に取り組んでいただける方を希望します。

5. 決定後できるだけ早い時期。
7. 履歴書, 研究歴, 業績リスト, 主要論文別刷, 研究計画書。自薦の場合は, 本人についての意見を述べられる方 2 名の氏名と連絡先, 他薦の場合は, 2 名の推薦書。
8. 平成 10 年 9 月 25 日 (金)
9. (1) 〒442-8507 愛知県豊川市穂ノ原 3-13
 名古屋大学太陽地球環境研究所
 所長 國分 征
 Tel:0533-89-5182
 Fax:0533-84-8806
 (2) 同研究所 小川忠彦 Tel:0533-89-5164
10. 封書に「助教授応募書類在中」と朱筆し, 書留で送付のこと。
11. 選考方法: 名古屋大学太陽地球環境研究所人事選考委員会の選考に基づき同運営協議会の意見を求めて同教授会で決定します。なお, 該当者がいない場合は決定を保留します。

[助手公募]

1. 助手 1 名
2. 総合解析部門 (愛知県豊川市)
3. 太陽地球系データの総合解析, モデリング/シミュレーションにより, 領域間相互作用の研究。とくに, 太陽風/磁気圏/電離圏過程の研究。
4. 全国共同利用研究所としての当研究所の任務を十分理解し, 当該部門の研究に積極的な役割を果たす方を希望します。
5. (1) 平成 10 年度のできるだけ早い時期。
6. 大学院修士課程修了または同等以上。

7. 履歴書, 研究歴, 業績リスト, 主要論文別刷, 研究計画書. 自薦の場合は本人について意見を述べられる方2人の氏名と連絡先, 他薦の場合は2人からの推薦書.
8. 平成10年9月25日(金)
9. (1) 〒442-8507 愛知県豊川市穂ノ原 3-13
名古屋大学太陽地球環境研究所
所長 國分 征
Tel:0533-89-5182
Fax:0533-84-8806
(2) 〒442-8507 愛知県豊川市穂ノ原 3-13
名古屋大学太陽地球環境研究所
部門主任 上出洋介
Tel:0533-89-5183
Fax:0533-89-0409
10. 封書に「助手募書類在中」と朱筆し, 書留で送付のこと.
11. 名古屋大学太陽地球環境研究所人事選考委員会の選考に基づき, 同運営協議会の意見を求めて同教授会で決定します. なお, 該当者がいない場合は決定を保留にします.

日本大学理工学部物理学教室助手公募

1. 助手1名
2. 宇宙物理学研究室
3. 4. 宇宙・天体物理学. 観測事実をベースにした実証的な理論的研究に意欲のある新進気鋭の若手研究者で, 学生, 院生の教育・研究指導にも熱意をもって取り組める方.
5. (1) 1999年4月1日(木)
6. 博士の学位を有するかまたは着任時までに取得見込みの方.
7. ○履歴書, ○業績リスト, ○主要論文別刷各4部(コピー可), ○これまでの研究概要と今後の教育・研究に関する抱負(2,000字以内), ○推薦状1通(自推も可) ○健康診断書
8. 1998年9月12日(土)必着
9. (1) 〒101-8308 東京都千代田区神田駿河台 1-8
日本大学理工学部 物理学教室主任 藤田丈久
(2) 宇宙物理学研究室 熊谷紫麻見
Tel / Fax: 03-3259-0890
e-mail: kumagai@phys.cst.nihon-u.ac.jp
11. 封筒に「物理学教員公募書類在中」と朱筆し, 書留で送付のこと. 適任者がいない場合は決定を保留することがある.

県立ぐんま天文台「観測普及研究員」

1. 若干名募集します.
2. 県立ぐんま天文台
群馬県吾妻郡高山村大字中山地内
4. 教育普及活動, 研究活動, 保守管理業務に従事します.
5. 平成11年4月1日
6. (1) 22歳以上(平成11年4月1日現在). 国籍問わず., (2) ①大学または大学院で天文学若しくは関連分野を専攻した者. ②望遠鏡や観測装置の操作・開発の経験のある者. ③これらと同等の知識や技能を有する者.
7. ①履歴書, ②研究歴(研究内容の概要を含む)や教育活動歴及び特記すべき実績や事項, ③抱負(1000~2000字)「ぐんま天文台で行いたい研究活動, 教育・普及活動」①~③様式問わず.
8. 受付: 8月1日(土)~8月31日(月)(8月31日消印有効.)
- ★天文台概要配布及びホームページ掲載予定: 7月下旬
・天文台概要を希望される方は, 返信用切手190円を同封の上, お申し込み下さい.
・ホームページ <http://www.astron.pref.gunma.jp/>
9. 〒371-0847 群馬県前橋市大友町 1-18-7
群馬県教育委員会事務局生涯学習課
天文台管理係 下田明英
電 話: 027(254)2882
F A X: 027(254)2883
10. 封筒の表に「天文台職員応募書類在中」と朱書きして下さい.

研究助成

平成1999年度「女性科学者に明るい未来をの会・猿橋賞」の受賞候補者及び研究助成候補者の推薦依頼

「女性科学者に明るい未来をの会」から標記の依頼が届いております. 詳細は下記事務所までお問い合わせ下さい.

猿橋賞

1. 本賞は自然科学の分野で, 顕著な研究業績を収めた女性科学者(ただし, 下記の推薦締切日で50歳未満)に贈呈します.
2. 本賞は賞状とし, 副賞として賞金(30万円)をそえます.

3. 本賞の贈呈は1年1件(1名)です。
4. 所定の用紙に受賞候補者の推薦対象となる研究題目, 推薦理由(400字程度), 略歴, 主な業績文献リスト, 主な論文別刷10編程度をそえて, 下記事務所までお送りください。
5. 締切は1998年11月30日(必着)。
6. 第19回の賞贈呈式は, 1999年5月, 東京において行う予定です。

研究助成

1. 海外のシンポジウム等に出席し, 論文を発表する女性研究者に対し, 研究助成をいたします。
2. 助成金は1件10万円とし, 年に数件とします。
3. 所定の用紙に推薦対象者(各締切日において満40歳未満)の略歴, 研究業績, 国際会議名(主催団体, 開催場所, 年月日), 発表論文題目, 推薦理由等を記入して, 下記事務所までお送りください。
4. 締切は1998年11月末日と, 1999年4月末日の2回。

★なお、最近3年間の猿橋賞受賞者は次の通りです。

第16回(1996年)

理化学研究所主任研究員 川合真紀博士

「固体表面における化学反応の基礎研究」

第17回(1997年)

名古屋大学生物分子応答研究センター助教授

高倍鉄子博士

「植物耐塩性の分子機構に関する研究」

第18回(1998年)

千葉大学大学院自然科学研究科教授 西川恵子博士

「超臨界流体の研究」

下記事務所(必着)

事務所: 女性科学者に明るい未来をの会

〒166-0002 東京都杉並区高円寺北4-29-2-217

Tel / Fax: 03-3330-2455

★提出用紙は日本天文学会事務室に用意してあります。

平成10年度 東レ科学技術賞・研究助成

東レ科学振興会から次の概要が届きましたのでお知らせいたします。応募用紙は日本天文学会までご請求下さい。

I. 東レ科学技術賞(概要)

1. 候補者の対象……天文学会に関する分野で, 下記に該当するもの
 - (1) 学術上の業績が顕著なもの
 - (2) 学術上重要な発見をしたもの
 - (3) 重要な発明をして, その効果が大きいもの
 - (4) 技術上重要な問題を解決して, 技術の進歩に大きく

く貢献したもの

2. 科学技術賞……1件につき, 賞状, 金メダルおよび賞金500万円, 2件前後。
 3. 候補者推薦件数……1学協会から2件以内
- II. 東レ科学技術研究助成(概要)**
1. 候補者の対象……天文学会に関する分野で, 基礎的な研究に従事し, その研究の成果が科学技術の進歩, 発展に貢献するところが大きいと考えられる独創的, 萌芽的研究を活発に行っている若手研究者。
 2. 研究助成……総額1億3千万円, 1件3千万円程度まで10件程度。
 3. 候補者推薦件数……1学協会から2件以内。
- III. 学会必着日(I, IIとも)……平成10年9月10日(木)**

研究会・集会案内

1998年度公開天文台ネットワーク(PAONET) 加入受けのお知らせ

「公開天文台ネットワーク」(略称, PAONET: パオネット)は, 国立天文台が広報普及活動の一環として, 各地の公共天文台・プラネタリウム・科学館・教育センター・学校などに対し, 電話回線を通じて天文の最新画像や情報などを提供するシステムです。PAONETは1995年11月から正式に運用しており, 現在約110の加入団体が参加しております。

- 加入資格は: 天文の普及・教育を目的とした非営利団体であること。所属長の加入承認が必要なこと。担当者(施設職員)にコンピュータの知識があること。担当者(施設職員として, または施設として)が電子メールアドレスを持っている(電子メールで必ず連絡がとれる)こと。Windowsが動作するパソコン, 電話回線, モデムがあること。最近ではPAONET参加ユーザーの相互により, MachintoshやLinuxでも利用する環境が整っています(基本はWindowsです)。
- ・電話で直接PAONETのHOST(アクセスポイント)にアクセスする方法以外に, HOST迄遠距離にあるユーザーの為のプロバイダー経由のUUCPによるファイル取得が出来るようになりました。
- ・インターネットプロバイダーまたは直接のインターネットを介して, FTPにて画像を取得できるようになりました。
- ※PAONETは公開施設および教育機関を対象としたサービスですので営利団体・個人の参加はできません。
- 加入団体の義務は: 運用年度末に報告書を提出すること。
 - ・運用規則を厳守すること。
 - ・担当者は毎年1回開催

される「PAONET全体ユーザーズミーティング」に参加すること。

※義務を果たさない団体には自動的に退会して頂くこととなります。

- 募集のメ切は：8月31日(月)メ切で、加入申請書を受付けます(必着)。加入が承認された団体には、10月6日(火)に東京・三鷹にて行われる予定の、「PAONET新規ユーザー説明会」に参加して頂き、各種の説明と資料およびプログラム等の配布を受付けます。また、同日行われる「PAONETユーザー全体ミーティング」にも参加して頂きます。

- 資料や参加申込書などの請求、質問は下記宛に郵便、FAX、電子メールにておねがいします(電話でのお問い合わせは担当者不在が多い為、できるだけお避けください)。

国立天文台 天文情報公開センター 広報普及室内 PAONET 事務局

〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1

電話: 0422-34-3688 (平日, 9:00 ~ 18:00)

FAX: 0422-34-3810

電子メール: paomgr@pub.mtk.nao.ac.jp

1998年スター・ウィーク協賛特別企画『天文学者があなたの質問に答えます』のご案内

国立天文台では1998年のスター・ウィーク(8月1日~7日)にあわせて、表記の企画を行います。天文学に関してわからないこと、ふだん疑問に思っていることなどを、電子メールにて質問を受け付け、ウェブと電子メールによって現役の天文学者からの答えをお送りしようという企画です。

期間・日時: 質問受付: 7月27日(月)~8月7日(金)

回答開始: 8月1日(土)~8月31日(月)

質問の仕方:

1. 電子メールで空文を「situmon1@pub.mtk.nao.ac.jp」まで送って下さい。または、国立天文台のホームページにある、スター・ウィークのページ (<http://www.nao.ac.jp/pio/starweek/>)の、「天文学者があなたの質問に答えます」のページからご自分の電子メールアドレスを入力して下さい。
2. メール送付先に、質問の仕方(要綱)が自動的に返送されてきます。
3. この要綱に書かれてある内容に従って、質問受け付けの電子メールアドレスに質問を送って下さい。
4. 回答期間中にご本人に直接、電子メールにて返信します。
また、ホームページ上にも「Q&A集」として掲示

したいと思います。

※質問は「天文に関する質問」に限らせていただきます。天候や超常現象などは質問の範疇から外れます。また、多量のデータや資料を必要とするような質問にはお答えできない場合もあります。

※質問に対する回答はできるだけ迅速に行なう予定ですが、国内に質問に答えられる研究をしている天文学者がいない場合や、実際には未だ解明されていないような質問の場合、回答不可能となる場合もあることをご了承ください。

※なお、詳細などについては、国立天文台ホームページのスター・ウィークのページをご覧ください。

これまで、国立天文台では電話および郵便での質問には対応して参りましたが、電子媒体での質問にはお答えしておりませんでした。今回の企画が試みとして巧く行けば電子媒体での広報活動の一環として、質問受付を正規に行なえるようにする判断材料となるものと考えています。

国立天文台 天文情報公開センター 広報普及室 & スター・ウィーク実行委員会事務局

〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1

電子メール: starweek@pub.mtk.nao.ac.jp

(この企画で「天文学者があなたの質問に答えます」自体の質問を送るアドレスではありません。ご注意ください。)

東京大学理学部天文学教育研究センター木曾観測所及び名古屋大学太陽地球環境研究所の特別公開について

時期: 1998年8月8日(土)/9日(日)

時間: 8月8日(土) 13時~17時

天体観望会 19時~22時

8月9日(日) 10時~16時

開催場所: 〒397-0101 長野県木曾郡三岳村 10762-30

電話: 0264-52-3360 FAX: 0264-52-3361

内容: 東京大学木曾観測所及び名古屋大学太陽地球環境研究所を一般の皆様にご公開いたします。普段見ることのできない望遠鏡の動きや、測定装置を見学できるほか、観測所ととらえた最新の天体画像や写真等が見られます。また、8日の夜には、小望遠鏡を用いて惑星等を観望する観望会を開きます。

- 1) 木曾観測所及び太陽地球環境研究所施設の公開と説明
- 2) 望遠鏡のデモンストレーション
- 3) 特別展示「ファイバー多天体分光観測装置(21世紀の木曾観測所を担う)」

- 4) 研究活動の紹介
- 5) 天体観望会 (8日のみ: 雨天中止)
- 6) ビデオの上映
- 7) 天体写真の展示及び販売

備考: 当施設への交通手段については, JR 中央線木曾福島駅あるいは上松駅より車で約 30 分です. 観測所から 6 km のところまでバスの便があります (1 日数本). 清涼飲料の販売はいたしますが, 食堂はありませんのでご注意ください.

問い合わせ先:

木曾観測所 〒397-0101 長野県木曾郡三岳村 10762-30
(樽沢, 矢動丸)
電話: 0264-52-3360
FAX: 0264-52-3361

名古屋大学 〒422-8507 樽沢豊川市穂の原 3-13
電話: 0533-89-5175
FAX: 0533-85-3882 (STE 研)

国立天文台野辺山観測所特別公開のお知らせ

文部省 国立天文台
電波天文学研究系
野辺山宇宙電波観測所
野辺山太陽電波観測所

当観測所では, 天文知識の普及と観測所の仕事を広く知って頂くため, 下記の要領で観測所の諸設備を一般の方々に公開いたしますので, ご案内申し上げます.

1. 日時: 1998 年 9 月 23 日(水・祝)
午前 10 時~午後 4 時

2. 内容:

(1) 見学

通常の見学コースの他, 45 m 電波望遠鏡の観測室, 10 m ミリ波干渉計の観測室, 電波ヘリオグラフの観測室, 観測データを処理する計算機等を見学できます.

(2) 展示

宇宙からやってくる電波をとらえる観測装置の仕組みや, 最近の観測結果を展示します.

(3) 講演

『すばるの時代がやってきた ~どうなる? 21 世紀の天文学~』

唐牛 宏 (国立天文台) 11:00 ~ 12:00

『LMSA (大型ミリ波サブミリ波干渉計) 計画 ~創世の時代へのタイムマシン~』

阪本成一 (国立天文台) 13:00 ~ 14:00

『宇宙・生命』

平林 久 (宇宙科学研究所) 14:30 ~ 15:30

(4) その他

模型ロケット打ち上げ・分子実験・記念写真入カレンダー・質問コーナー等

3. 交通:

鉄道 JR 小海線・野辺山駅下車 徒歩 25 分 (駅から無料シャトルバスあり)

車 中央道◎東京方面から須玉インターより右折, 国道 141 号を清里方面約 40 分

◎名古屋方面から小淵沢インターより右折 八ヶ岳有料道路/国道 141 号小海方面を経て約 40 分

上信越道◎佐久インターより国道 141 号線を経て約 80 分

☆入場無料

☆上履き (スリッパ等) を各自ご持参下さい.

☆観測所内に食堂はありませんが, 観測所に隣接する講演会場の南牧村農村文化情報交流館にはあります.

☆当日, 天文台入口駐車場は大型バス・障害者用となります. その他の方は, 野辺山スキー場の駐車場をご利用下さい. (スキー場からの無料シャトルバスあり)

★問い合わせ先:

〒384-1305 長野県南佐久郡南牧村野辺山

国立天文台 野辺山

電話: 0267-98-4300 (代表)

ホームページ: <http://www.nro.nao.ac.jp/open-day>

会務案内

日本天文学会早川幸男基金受給者募集要項

日本天文学会 早川幸男基金 (若手海外学術研究援助基金) 内規*に基づき, 海外学術研究に対して援助を希望する者を募集 (1998 年度第 4 期) 致します.

1. 援助金総額 年間 200 万円 (1998 年度)

2. 援助件数 年間数件程度

3. 募集対象期間 1998 年 10 月 1 日~12 月 31 日の間に日本を出発するもの. また前回の応募時に間に合わず, すでに渡航してしまった場合はその事情説明をつけて応募して下さい.

4. 応募必要書類 (少なくともコピーの分は A 4 紙に統一すること)

原本 1 部, コピー 5 部. 書類 (特にコピーの分) に不備があると審査段階で不利益を被る恐れがありますのでご注意ください.

(1) 応募用カバーシート (第 91 巻 5 号 244 頁の応募用紙を A 4 に拡大コピーして使用する). なお, 渡航目

的と応募者の研究内容との関連は詳しく書くこと。

- (2) 論文リストを含む研究業績
 - (3) 観測については、観測割当通知および観測提案の写しか、それに準ずるもの
 - (4) 国際共同研究については、渡航先の招聘状および研究計画の概要
 - (5) 研究集会参加については、当該研究会開催の主旨を説明する資料、プログラム、および応募者の寄与（口頭発表等）を証明するもの
 - (6) 大学院生の場合、研究指導者の意見書
 - (7) 航空運賃の見積書
 - (8) 関連研究論文の写し（一編）
5. 応募締切：1998年9月10日必着
 6. 決定時期：1998年9月下旬
 7. 応募書類送付先：

〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1
国立天文台内
日本天文学会 早川基金募集係

* 早川基金内規（社団法人日本天文学会定款参照）による援助対象資格は「日本天文学会会員で、原則として35歳以下の天文学研究者であって、この基金以外の海外渡航費（滞在費を除く）の援助を受けない者。」です。

* 1999年はこの後、12月10日締め切りで1999年1月～3月出発分の募集を行う予定です。応募希望者は書類等の準備をしてください。

* 援助者には、帰国報告書の提出をお願いします。

第10回日本天文学会研究奨励賞受賞候補者の推薦について

本会は、優れた研究成果を挙げている若手天文学者に対して、日本天文学会研究奨励賞を授与しております。本賞に関しては、

1. 受賞資格

- 1) 日本天文学会正会員で、最近3年間における天文学への寄与が顕著なる者
- 2) 当該年度の初日で35才以下の者。

2. 賞

本賞は、賞牌（メダル）及び賞金を併せ授与するとなっています。平成10年度の受賞候補者の推薦状を1998年9月30日（必着）までに、日本天文学会研究奨励賞選考委員会宛に、お送り下さい。委員会では、推薦された方の中から、研究奨励賞内規に基づき選考を行い、候補者を評議員会に推薦致します。

なお、推薦の際、主要論文リストも添付していただければ幸いです。

宛先：〒181-8588 三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内
日本天文学会 研究奨励賞選考委員会宛
TEL: 0422-31-1359 FAX: 0422-31-5487

参考：これまでの受賞者は次の方々です。

- | | | |
|-----|-------|--|
| 第一回 | 長谷川哲夫 | 「蛍光励起分子の研究」 |
| | 吉田春夫 | 「非線形力学系の積分可能条件の研究」 |
| 第二回 | 須藤 靖 | 「銀河形成論と宇宙マッハ数テストの提唱」 |
| 第三回 | 山本 智 | 「実験室分光による星間分子の研究」 |
| 第四回 | 嶺重 慎 | 「降着円盤の不安定性の理論的研究」 |
| 第五回 | 関口真木 | 「汎用 CCD カメラ制御システムとモザイク CCD カメラの開発」 |
| 第六回 | 山下卓也 | 「星・惑星系形成過程の観測的研究と赤外線観測装置の開発」 |
| | 伊藤智義 | 「重力多体問題専用計算機の開発」 |
| 第七回 | 中川貴雄 | 「遠赤外線分光観測システムの開発とそれによる銀河系 [CII] スペクトルサーベイ」 |
| 第八回 | 三好 真 | 「VLBI 観測による NGC4258 銀河中心核における巨大ブラックホール候補の発見における貢献」 |
| 第九回 | 太田耕司 | 「遠方銀河の観測的研究」 |

編集委員	末松芳法（編集長）、上野宗孝、大橋正健、小谷太郎、辻本拓司、野口邦男、平野尚美、宮坂正大
平成10年7月20日	発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
印刷発行	印刷所 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町565-12 啓文堂 松本印刷
定価700円（本体667円）	発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
TEL: 0422-31-1359（事務室）	／ 0422-31-5488（月報・欧文編集） FAX: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595
日本天文学会のホームページ	http://www.tenmon.or.jp 月報編集 e-mail: gpjimu@tenmon.or.jp